

今年の花粉飛散量予測と花粉症対策について

今年の花粉飛散量は、一部の地域を除いて全国的に例年より多くなると予測されている。年々、花粉症の患者数が上昇するなか、一部の試算では花粉症による国内の経済損失は数千億円にも上るといわれている。

そこで、今回は今年の花粉飛散量予測とともに、花粉症の予防策と関連商品の動向についてみてみたい。

1. 花粉症の概要

花粉症とは、スギやヒノキなどの花粉が、抗原（アレルギーの原因物質）となって起こるアレルギー疾患の一種である。日本では、1960年代に初めてスギ花粉症の報告がされて以来、年々患者数は増加傾向にあり、現在では人口の約16%にもなると推計されている。花粉症による主な症状は以下のとおりである。

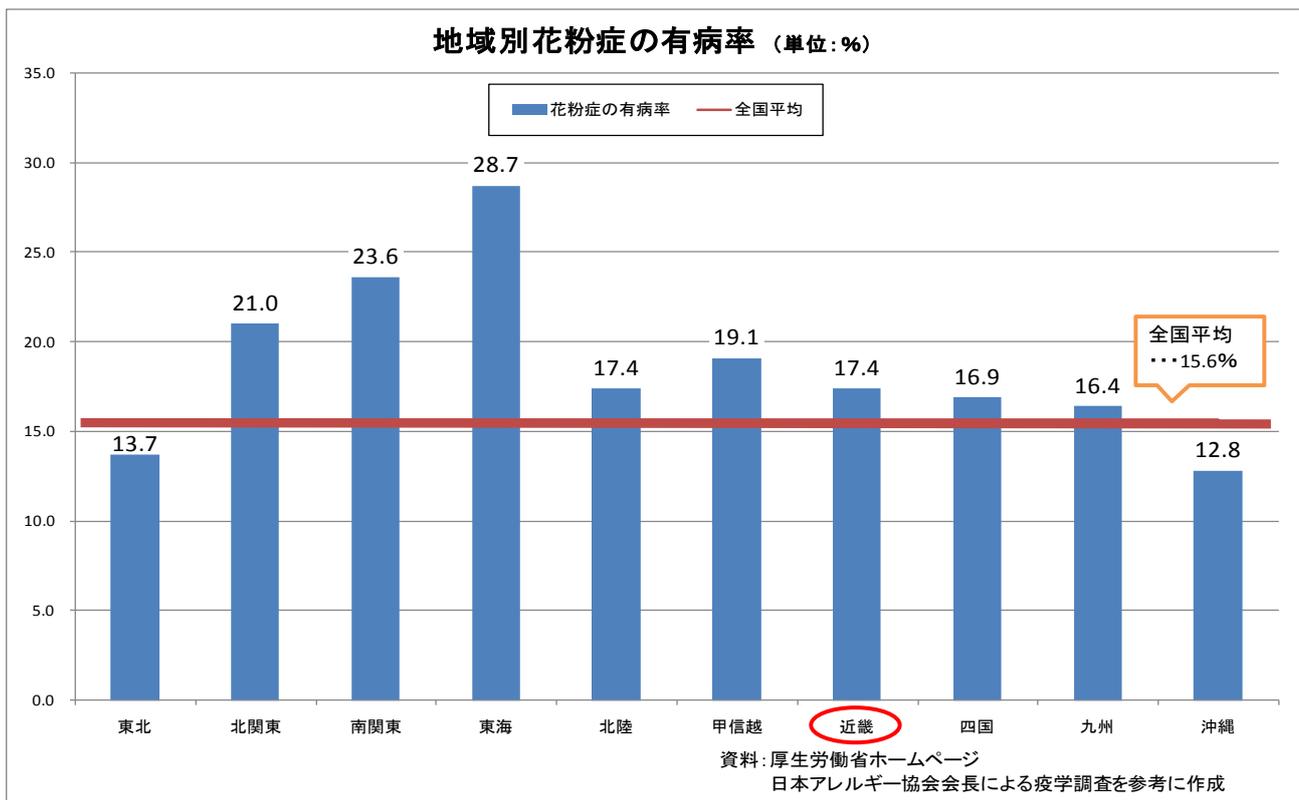
【花粉症の主な症状】

患部	症状	詳細
鼻	くしゃみ	くしゃみは、外から入った異物を外に出そうとする防御反応であり、花粉症では連続して何度も起こるのが特徴。
	水様性鼻水 (水性鼻漏)	花粉症で鼻水の分泌が亢進し、鼻から出たり、のどに流れたりする（後鼻漏）。鼻水は水溶性で、いくらかんでも出てくる。
	鼻閉 (鼻づまり)	肥満細胞から分泌された化学伝達物質により生じる、鼻粘膜膨脹や血流悪化によって生じる。重症化すると鼻が完全につまり、口呼吸になる。
眼	眼の症状	激しいかゆみ、結膜充血、涙目など。

2. 花粉症有病者の割合…およそ6人に1人

「日本アレルギー協会」の平成15年の疫学調査によると、「近畿地方」の花粉症の有病率は17.4%と、「全国」の15.6%を上回る結果となった。また、近年では花粉症発症年齢の若年化が叫ばれている。花粉症を引き起こす植物は、日本では約50種類が報告されており、例えば、スギ林の面積は全国の森林の18%、国土の12%を占めている。

なお、花粉症に対して十分な注意が必要といわれる花粉飛散量は「2,000個/cm³」といわれている。

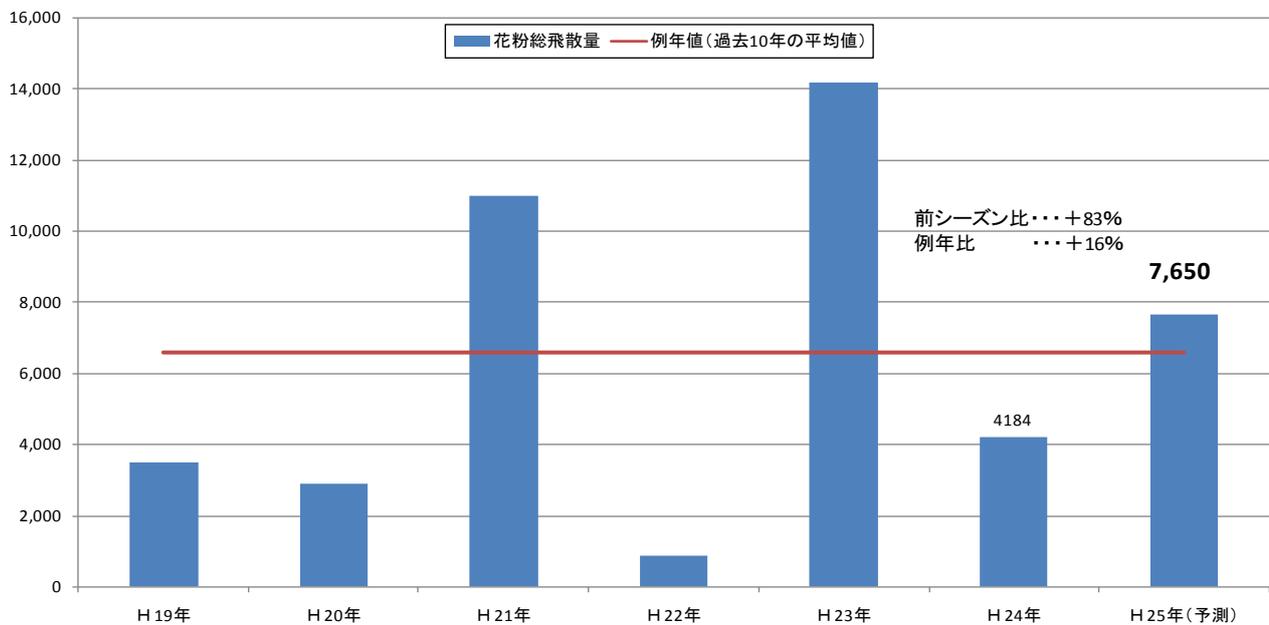


3. 県内の花粉量予測…前シーズンより「かなり多い」

スギ及びヒノキ花粉の飛散量は、前年夏の気象状況に大きな影響を受ける。花粉数に影響するのは6月から8月の日照時間や気温、降水量等で、特に7月上旬から8月中旬にかけての期間の影響が大きい。また、少量飛散年の翌年は花粉の飛散量が増加するという傾向が見られる。

環境省の「平成25年春における都道府県別花粉総飛散量（スギ、ヒノキの総数）予測（第3報）」によると、県内（大津市）の平成24年の1月末から5月までの花粉の飛散量実績値は「4,184個/cm³」と、例年に比べると少量だった。しかし、平成25年の予測値は「7,650個/cm³」で、前シーズン比83%増と、「かなり多い」といわれる水準になった。また、例年値（過去10年間の平均値）と比べても、16%増となる見込みである。これは、平成24年7月と8月の日照時間が長く、気温も高めだったことと、前シーズンが少量飛散年だったことが影響しているとみられている。

県内の花粉総飛散量(スギ、ヒノキの総数)の推移 (単位:個/cm³)

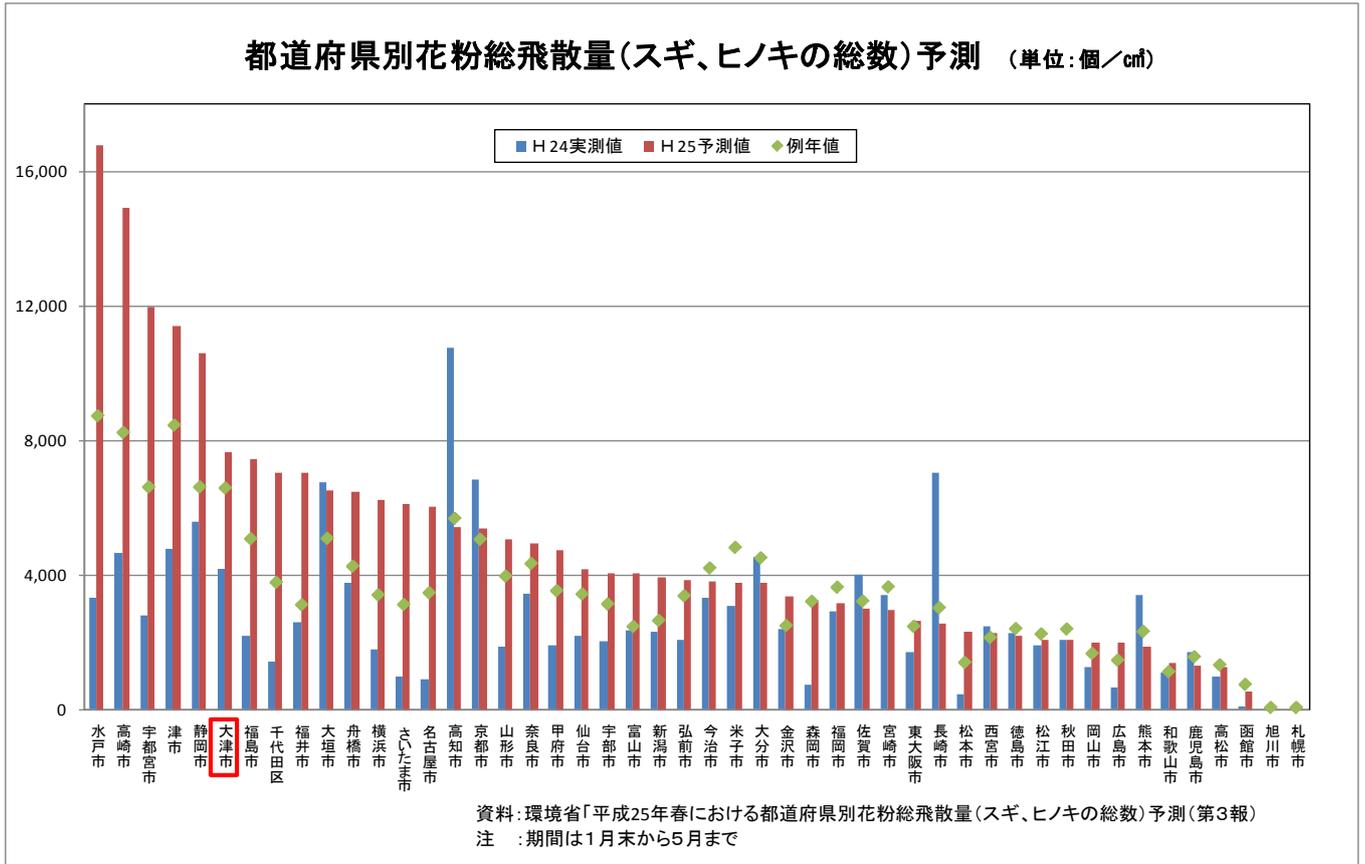


資料:環境省「都道府県別花粉総飛散量(スギ、ヒノキの総数)予測」をもとに作成
注:期間は1月末から5月まで

4. 全国の花粉量予測…大津市は第6位

今年の花粉飛散量の予測については、環境省の「平成 25 年春における都道府県別花粉総飛散量（スギ、ヒノキの総数）予測（第3報）」によると、一部の地域を除き全国的に前シーズンを上回る予測となっている。

「大津市」の今年の花粉飛散量予測は、データのある 48 か所のうち「6番目」となった。全国的に見ても、かなり高い水準になるようだ。

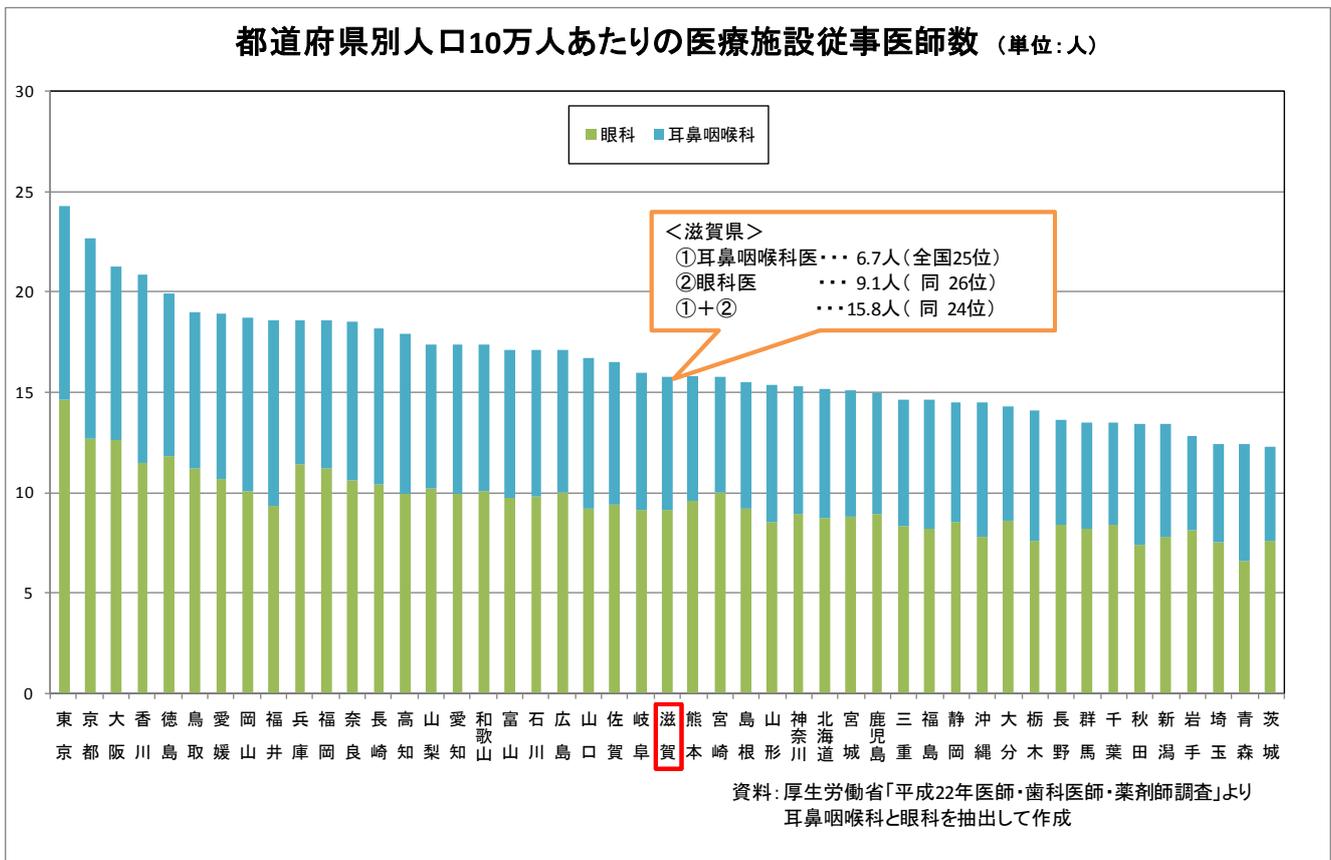


5. 花粉症関連の医師数…滋賀は全国平均をやや下回る

花粉症については、鼻であれば耳鼻咽喉科、目であれば眼科に受信するのが一般的である。その他、内科、小児科、アレルギー科でも診療が受けられる。

ここでは、厚生労働省の「平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査」をもとに、人口10万人あたりの耳鼻咽喉科と眼科の医療施設に従事する医師数を確認する。

全国平均は、「耳鼻咽喉科医」数が7.1人、「眼科医数」が10.0人で、両方の合計は17.1人だった。滋賀県では、「耳鼻咽喉科医」数が6.7人（全国25位）、「眼科医数」が9.1人（同26位）で、両方の合計が15.8人（同24位）と、全国平均をやや下回った。



6. 花粉症対策…機能性の高い関連商品に注目

治療が必要な場合は医療機関での診察が必要となるが、予防については自助努力によりかなりの対策が可能である。一般的には、うがいをする事、睡眠をよくとること、規則正しい生活習慣を身につけることは正常な免疫機能を保つために重要である。また、風邪をひかないこと、お酒の飲み過ぎに気をつけること、タバコを控えることは鼻の粘膜を正常に保つために重要である。

さらに、予防効果を高めるための「身の回りの環境対策用品」として、以下のものを例に挙げる。

【花粉症対策用品】

商品	特徴
マスク	花粉症対策の代表的な用品。マスクの着用で、吸い込む花粉を約3分の1から6分の1に減らし、鼻の症状を軽くする効果がある。 今年は大気汚染対策も兼ねて、微粒子をカットする高機能マスクが好調である。
メガネ	通常メガネでも、着用しない場合に比べて、目に入る花粉を約3分の1に減らすことができる。専門店では花粉対策機能のついた商品を取り扱っている。
服装	アパレルブランドからは、素材に特殊加工を施し、花粉などアレルギー物質を抑制するコートが出ている。逆に、ウール製の衣類は花粉が付着しやすいので要注意。
すきま防止グッズ	建物の隙間から、屋内に花粉が侵入するのを防ぐグッズ。 換気口やサッシの隙間、網戸に張るなど、様々な種類のものがある。
空気清浄機	外で衣服に付着した花粉や、屋内に侵入した花粉を除去する。 花粉除去に対応したものや、対策に有効とされる加湿機能の付いたものも多く出ている。 空気清浄機の普及率については次項にて説明する。

